



胃瘻をめぐる最近の動向

H26診療報酬改正によって胃瘻造設に対する診療報酬が(一定の条件をクリアできなければ)減算されることになりました。これは胃瘻について考え直すよい機会となる一方で、本来胃瘻の適応がある人に誤った栄養管理や治療法をミスリードする危険もはらんでいます。今回、この問題に関する意見の一例をご紹介します(2014年6月2日:週刊医学会新聞「胃瘻をめぐる問題と診療報酬改定」:鈴木裕<国際医療福祉大学病院 副院長>より)。

●今回の診療報酬改正にて国が期待していること

- * 診療報酬の引き下げで、胃瘻の乱造を防ぐ。
- * 術前に嚥下機能を評価した上で胃瘻をつくる, という治療の流れを作る。
- * 術前に嚥下機能評価を行うことで、患者や家族へより客観的な説明と同意を促す。
- * 術後の嚥下機能訓練を十分に行わない施設の診療報酬を減算することで、嚥下訓練を積極的に行うようにする。
- * 術後に嚥下機能を評価し、少しでも多くの患者の経口摂取を促す。



●今回の診療報酬改定に関して生じてきた懸念や課題

- * 胃瘻造設術の極端な見直しが本末転倒な事態を招くことにならないか?
- * 胃瘻の目的を分けて考えるべき(「直すための」と「緩和するため」の胃瘻)
- * 嚥下内視鏡検査の研修体制の充実に向けた関連学会の連携が急務

エッセンスはこんなところです。我々医療従事者は実際の現場で判断に迷う場面に何度も遭遇しています。患者への誠実な対応のみで解決できる問題であるのか不安に感じるのは私だけでしょうか...



平成26年度 第3回 NST研修会報告

2014.8.6(水) 17:30~18:30 3階講堂



テーマ『静脈栄養管理を学ぼう Step2』

講師:薬剤部 長谷川裕矢

参加者30名:次回も多数の参加お待ちしております♪

第14回 岐阜南NST研究会報告

8月21日(木) 18:30~20:00 3階講堂



特別講演

『輸液栄養がとっても身近に感じられるおはなし
—興味から始める輸液栄養—』

講師:金沢市立病院 薬剤室 東 敬一朗 先生

参加者78名(院外17施設:34名、院内:44名)

輸液の内容も、普段自分が食べている食事の献立を考えるのと同じように考えてみることで、輸液栄養がとっても身近なものに感じられた、楽しい講義となりました。

「まずは1ヶ月自分が生きていけるような輸液メニューを考えてみる」それが輸液栄養を考える第一歩として大切だと学びました！



☆東先生とNSTメンバーで記念撮影☆

お知らせ

第4回 院内NST研修会<<経腸栄養管理を学ぼうStep1>>

9月3日(水) 17:30~18:30 3階講堂

第5回 院内NST研修会<<経腸栄養管理を学ぼう Step2>>

10月1日(水) 17:30~18:30 3階講堂

どの職種でも参加可能です。栄養に興味のある方や、新人職員の皆様ぜひご参加下さい！